

ひかり

令和7年1月30日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
6年学年便り 2月号

学年名『ひかり』～卒業を見据えて～

1月22日(木)に委員会引継ぎ式に向けた「拡大委員長会議」が開かれました。この会議は各委員会の6年委員長と5年副委員長とが参加するもので、1月29日(木)の委員会引継ぎ式に向けて各委員会でのどのような思いで『ひかり』から『きぼう』へと委員会を引き継いでいくのか、共有を行う場でした。約1年間、委員会活動という「学校をよりよくするための自主的・実践的な」活動を牽引してきた『ひかり』にとって卒業間近であることを実感するとともに、最高学年としての意識を再度、強める機会になるはずです。会議の中である子は「1年間の活動をふり振り返りながら、下級生にとって〇〇委員会が“あってよかった”と思える委員会にしてほしい」と委員会の存在意義についての思いを、またある子は「なぜその活動を、そこ(場所・時期)で行うのか、“意味”を考えながら活動をつくってほしい」と活動の指針についての思いを語っていました。きっとどの委員会においても委員会目標の実現に向け、全校にどのようにアプローチをかけていくか、じっくりと考え実行してきたことでしょう。行ってきた活動はもとより、その活動を行ううえでの原動力となった思いや、活動に向かう中でつなげたいと感じた思いなどの目には見えないものが『きぼう』へとつながっていくことを願っています。また「引継ぎ式では、思いが受け止められる空気感というか、雰囲気をまずつくりたい」と引継ぎ式そのものの在り方に目を向けた言葉もありました。引継ぎ式としての雰囲気をつくり、目には見えない思いをつないでいく。まさしく“最高学年”としての使命を全うしようとする姿勢に頼もしさが強まるばかりです。



思えば、このような姿は今年度の随所でみられてきました。自学級の学年種目に向かいつつ、応援の完成度を高めるべく全校への働きかけを強めた運動会。多くの人が〇〇長という役割を担い、率先して姿で示すべきグル活・本キャンプ。どちらの活動においても“最高学年”としての姿を全うしようとする姿がありました。これら「全校」での行事に限らず、相棒活動や修学旅行、日々の授業に至るまで“最高学年”であることを意識した行動をとろうとしてきたはずはです。“最高学年”としての自らの行動に、なにかひとつでも、鮮明に残る手応えがあなたにあることを願っています。



『ひかり』という学年名。今年度の素晴らしい姿を思い返しつつ、卒業を見据えたいま、改めてその決定に至る経緯を振り返りたくなりました。以下、5年前の学年部職員からいまの学年部職員に引き継がれた学年名に込められた思いです。言葉は違えど、きっと5年前にも共有があったはずはです。

きよく あかるく そびえたつ きぼうのひかり ここにさす
くろい いらかの まなびやに くおんのひかり おしみなく

〈 校歌1番 〉

〈 希望の歌2番 〉

自分一人の力で「ひかり」輝くこともできますが、同じ目的に向かって友だちと共に力を合わせることでさらに「ひかり」輝くことができます。誰かの「～したい」という思いが実現されると、新たなものに向かってがんばっていきます。その中で自分の力を磨いたり、仲間と共にごんぱったりしながら、自分を磨き続け、新たな「ひかり」を手にしてほしい、そう願っています。

様々な経験を通してあなたは成長していくでしょう。その中には悲しいことも苦しいこともあります。喜びや達成感、満足感を得ることもできます。自分のために、そして仲間と一緒に「ひかり」輝ける学年に成長していくことを願い、「ひかり」という学年名を考えました。

なりたい自分を思い描き、自分のために『ひかり』輝こうとする姿、仲間と一緒に目標にちかづくために『ひかり』輝こうとする姿。まさしく上述したような姿といえるのではないのでしょうか。“最高学年”としての残りの1か月あまり、どうか胸を張って。あなたらしく『ひかり』輝く姿を期待しています。